



しおかぜ



よこはましりつうしおだしょうがっこう
横浜市立潮田小学校
2022年11月30日

だれ 「誰か」のことじゃない

こうちょう こいずみ ひろし
校長 小泉 博史

私わたしが小学生しょうがくせいのころ、心こころ無ない言葉ことばで友だちともを傷きずつける場面ばめんを何度なんどか自めにすることがありました。「家いえがぼろいから、貧乏びんぼう人にんだ。」「あの子こは豚ぶたに顔かおが似にてるから豚ぶたって呼よぼうぜ。」言い返いせる子こは、同おなじように相手あいてに言いり返かえし、けんかになっていました。その中なかで、言いり返かえせない子こは、言いわれいばなしでした。言いり返かえさない子こに私わたしは「言いり返かえせよ。」と言いいましたが、「言いり返かえしても、もっいとひどく言いわれるから言いわないよ。」と我慢がまんをしていました。その友だちともが悪口わるくちを言いわれたら、私わたしが代かわりに言いり返かえし、よくけんかになっいたものです。

それから、社会しゃかいや自分じぶんの身近みぢかで、偏見へんけんや差別さべつを見聞みききすることがありました。その度たびに、憤いきどおりを感じかんてきました。「どうして差別さべつやいじめはなくならないのだろう。同おなじ人間にんげんなのに・・・」

人ひとは一人ひとりとして同おなじ人間にんげんはいません。姿すがたかたちはもちろん、能力のうりょく、年齢ねんれい、性別せいべつ、国籍こくせき、職業しよくぎょう、嗜好しこう、信条しんじょう、宗教しゆきやうなど違ちがう部分ぶぶんはたくさんあります。それなじぶんのに自分おとより劣おちっていると思おもわれる相手あいてに対したいし差別さべつやいじめを行おこなう傾向けいこうがあるよかんうに感じかんじます。でも違ちがう人間にんげんでも、共きようつう通つうな部分ぶぶんがあります。それは、人間にんげん（地球人ちきゅうじん）であること。だれもが幸しあわせを求もとめて生いきているということ。

そう、だれもが幸しあわせを求もとめて生いきているということを忘わすれてはいけおちないのだと思おもいます。しかし、大人おとなの世界せかいでも自分じぶんとは違ちがうという理由りゆうで差別さべつをしたり、相手あいてをせめたり、相手あいてに要よう求きゆうをしたりするこげんじつが現お実におこっています。世界せかいで起おこっている戦せん争そうや紛ぶん争そう、ヘイトスピーチやSNS等とうによる差別さべつ発言はつげんです。本ほん当とうに残ざん念ねんとしか言いいようがありません。

「どんな違ちがいがあっても、だれもが幸しあわせを求もとめて生いきているということを教おしえていくことが、大人おとなが次つぎの世せ代だいを担たう子どもたちに残のこす大おほきな仕事しごとだと思かんがえています。でも、それは学校がっこうだけでできることではありませない。家庭かていの中なかでも地ち域いき社会しゃかいでも、子こどもと接せつするありとあらゆる人ひとが、ありとあらゆる場ば面めんで教おしえていくことが大たい切せつなのだと考かんがえています。

潮田うしおだ小学校しょうがっこうは、1998年ねんから人権じんけん教育きやういく推いん進しんセンター校こうとして教育委員会きやういんかいから指し定ていされ、人権じんけん尊そん重ちゆうの精神せいしんを基き盤ばんとする様さま々ざまな取とり組ぐみを行おこなってきました。「世界せかいにつなながる潮田うしおだ小学校しょうがっこう」と子こどもたちが意い識ししているように、本ほん校こうには多おほくの外国がいこくにつなながる児じ童どうがいます。潮田うしおだ小しょうの子こどもたちは分わけ隔へだてなくかかあわっている姿すがたが多おほくみられます。それはこれまたでの取とり組ぐみの成せい果かなのだと感かんじます。学が校こうでは潮田うしおだ小しょうに通かようすべての子こどもたち「だれもが安あん心しんして豊ゆたかに」生せい活かつするために、自じ分ぶん事こととして相あ手てのこを大たい切せつにできる気き持もちをよいっ層そう育くんでまいります。今こん年ねん度どの人権じんけん週しゅう間かんでは「人ひととのかかかわりを大たい切せつにすること」「自じ分ぶんの周しゅうりの人ひとを思いいやること」をテがーマいに外がい部ぶ講こう師しによる講こう演えん会かいを予よ定ていしています。

潮田うしおだ小学校しょうがっこうでは12月がつ5日にち（月げつ）～12月がつ9日にち（金きん）が人権じんけん週しゅう間かんとなります。「誰だれか」のことじゃなく、自じ分ぶん事こととして、自じ分ぶんには何なにができるか考かんがえてみましょう。